

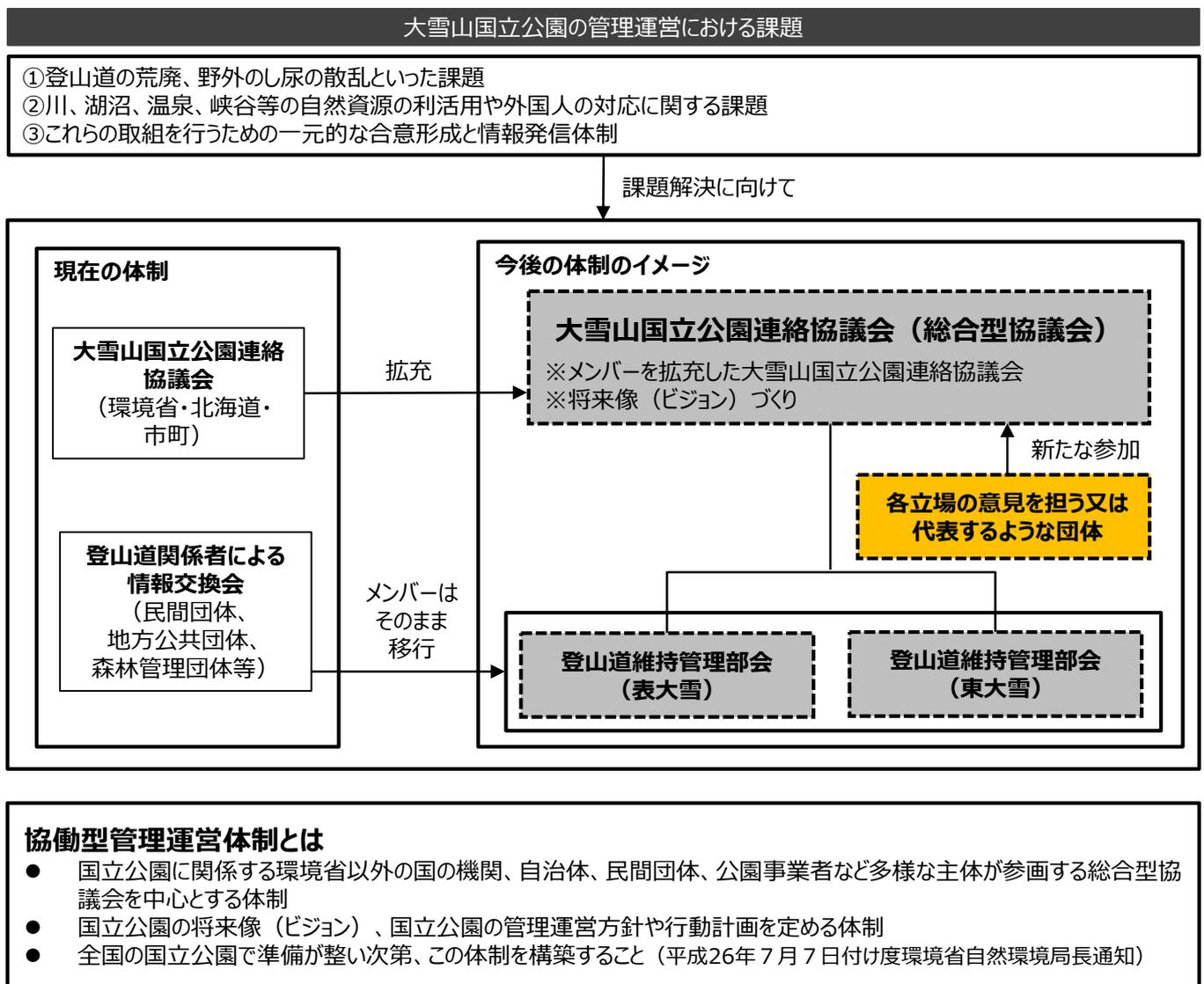
# 大雪山国立公園における 協働型管理運営体制の構築に向けて 民間団体の皆様の関わり方と対応を考えるワークショップ 開催結果

環境省上川・東川・上士幌自然保護官事務所

## ワークショップ開催の趣旨と目的

北海道地方環境事務所では、大雪山国立公園の管理運営における課題の解決を大きく前進させるため、既存の大雪山国立公園連絡協議会を「総合型協議会」に拡充し、その下に「登山道維持管理部会」を設けることで、産学官民の参加による協働型管理運営体制を構築したい考えです。（下図）

大雪山国立公園の管理運営や利用状況を踏まえると、協働型管理運営体制に、登山道の整備や維持管理、登山利用、ガイド利用をされている民間団体の皆様に参画いただくことは不可欠です。そこで民間団体の皆様が、協働型管理運営体制にどのように関わり対応していくべきかを考えるワークショップを行いました。



## ワークショップの内容

ワークショップは3回程度（自由な意見・アイデア出し→論点整理と議論→とりまとめの三段階）を想定し、第1回では最初の「自由な意見・アイデア出し」の部分を実施しました。

## ワークショップ参加者

主に表大雪および東大雪登山道関係者による情報交換会にご出席の、行政を除く民間団体の方々に参加を呼びかけました。また、大雪山国立公園の協働型管理運営体制に関する有識者にご参加いただきました。

## ワークショップ開催日時・場所・参加者

	開催日時	開催場所	参加者数
表大雪地域	平成30年 3月7日（水） 13：30～16：30	上川総合振興局 3F 講堂 (旭川市)	27名 ・民間団体25名 ・学識経験者2名 (27名を2グループに分け実施)
東大雪地域	平成30年 3月15日（木） 13：30～16：30	とかちプラザ 403会議室 (帯広市)	11名 ・民間団体9名 ・学識経験者2名 (11名1グループで実施)

### 【配布資料】

ワークショップ次第

資料1 参加者名簿（地域別の名簿）

資料2 ワークショップ開催要項

資料3 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて

(補足資料) 大雪山協働型管理運営体制図案、協議会・部会メンバーリスト案

資料4 ワークショップの進め方



表大雪地域のワークショップの様子



東大雪地域のワークショップの様子

### 当日のプログラム(表大雪地域、東大雪地域共通)

1. 開会
2. 大雪山国立公園における新たな協働型管理運営体制の構築に関する説明（30分）
3. 質疑応答20分
- 休憩（10分）
4. ワークショップその1（45分）  
新しい協働型管理運営体制について、民間団体としての「心配や関心事」・「今後参加が必要と思われる人や団体」・「運営に関するアイデア」などの意見出しと発表
5. ワークショップその2（45分）  
協働型管理への参画について、各民間団体からの「参画への心配事」・「参画のためのより良い環境とは」・「新しく試みたいこと」などの意見出しと発表
5. ワークショップまとめ（20分）  
ワークショップ全体のまとめとして有識者からのコメント  
(表大雪地域：愛甲先生・木村先生) (東大雪地域：愛甲先生・渡辺先生)

## ワークショップの結果・全体のとりまとめ

表大雪地域・東大雪地域の地域に関係なく共通する意見と、地域ごとの意見がわかるように地域・項目ごとに、主な意見を比較し記載しました。

今回ワークショップに参加した民間団体は、大雪山国立公園の高山帯（特に登山道）の維持管理や利活用に携わる団体が多いため、それらの課題や今後の取組について具体的な意見が出され、今後も議論を深めることができる可能性があると考えられます。また、総合型協議会については山麓部や登山道の利活用以外の分野の話題も含むため、協働型管理運営体制に対する関わり方が現時点ではイメージしにくいものと考えられました。

今後は、今回ワークショップに参加した民間団体の得意分野を活かせるような、協働型管理運営体制への関わり方を検討していくことが重要であると感じました。

### WS1：「新しい協働型管理運営体制」についての両地域共通の意見と地域ごとの主な意見

	両地域共通の意見		
		表大雪地域の意見	東大雪地域の意見
心配や関心事	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい協働型管理運営体制についてイメージができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理側の高齢化や将来的な人材育成</li> <li>新しい体制の資金面(予算)の裏付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政体制への疑問</li> <li>アクセス道路の不通箇所について</li> <li>携帯トイレブースの促進</li> <li>現場での具体的問題と体制の結びつきがわからない</li> </ul>
今後参加が必要と思われる人や団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般登山者</li> <li>近郊都市の関係者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元農家</li> <li>アウトドア事業者</li> <li>アイヌ民族</li> <li>試案メンバーで十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物専門家</li> <li>地元教員</li> <li>表大雪メンバー</li> </ul>
運営に関するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型協議会や登山道維持管理部会への民間団体の関わり方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力金・基金等の活用</li> <li>運営や情報発信について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論の内容の具体化</li> <li>フォーラムの開催</li> <li>表大雪地域との合同情報交換会</li> </ul>

### WS2：「協働型管理運営体制への参画」についての両地域共通の意見と地域ごとの主な意見

	両地域共通の意見		
		表大雪地域の意見	東大雪地域の意見
参画への心配事	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化や人材育成について</li> <li>団体の負担増加に対する懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見の集約ができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体制が継続して機能していくか</li> </ul>
参画のためのより良い環境とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>参画しやすい体制づくりと参加者の立場の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信と共有</li> <li>管理団体一元化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>許認可の簡素化</li> </ul>
新しく試みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間資金の調達</li> <li>SNSでの情報共有・発信、情報の一元化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を効率的に行う運営メンバーの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人対応</li> </ul>

## **表大雪地域ワークショップの記録**

**日時:平成 30 年 3 月 7 日(水) 13:30~16:30**

**場所:上川総合振興局 3F 講堂 (旭川市)**

平成29年度 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の  
構築に向けて民間団体の皆様の関わりと対応を考えるワークショップ  
参加者一覧

	所属	氏名
1	旭岳ビジターセンター	菊地 基
2	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	黒田 忠 立原 祥弘
4	旭川山岳会	狩野 明美
5	上川山岳会	澤崎 新一
6	美瑛山岳会	内藤 美佐雄
7	(有)風の便り工房	佐藤 文彦
8	NPO法人大雪山自然学校	小沼 秀樹
9	合同会社北海道山岳整備	岡崎 哲三 下條 典子
10	大雪と石狩の自然を守る会	寺島 一男 関口 隆嗣
11	ガイドオフィス風 北海道山岳ガイド協会表大雪地区	羽鳥 晃一
12	東川エコツーリズム推進協議会	大塚 友記憲
13	大雪山倶楽部	愛澤 美知雄 沓澤 克嘉
14	NPO法人かむい	濱田 耕二
15	日本山岳会北海道支部	藤木 俊三
16	北海道勤労者山岳連盟（道央地区）	伊吹 省道
17	NPO法人アース・ウィンド	横須賀 邦子
18	層雲峡ビジターセンター	片山 徹 佐久間 弘
19	NPO法人 ezorock	高橋 苗七子 伊藤 陽平 伊藤 早穂 菅原 圭祐
20	北海道大学大学院 農学研究院	准教授 愛甲 哲也
21	北海道大学 観光学高等研究センター	特任教授 木村 宏

## ☆ 表大雪地域ワークショップ

WSの結果として、質疑応答の内容、WSでの意見だしの結果、WSのまとめ（学識経験者のコメント）を以下に示す。

### 質疑応答

- |        |                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 岡崎氏    | 今回のWSの趣旨は、今まで環境省や森林管理署が行ってきた整備や管理体制に限界があり、今までの管理の体制や方向性をガラッと変えてやっていくという前提で皆さんから話を聞きたいと理解していいのか？                           |
| 榊自然保護官 | 現在の法制度に基づく管理方法が変えられるわけではないが、大雪山の管理運営全体を考える際に、今までと違い、より多くの立場の人が関わって方向性を考えていく形にしたいと考えている。                                   |
| 岡崎氏    | 今までの管理の問題点や行き詰まりの原因を考えなければならないと思っている。いずれにしても管理方法に関してはアイデアがあるので出していきたい。                                                    |
| 寺島氏    | 今までの管理運営は官が中心であったが、今回の説明のように広範に民間を入れることは評価したい。ただ大雪の問題の背景に関しては、この先の人口減少、高齢化、利用の変化など社会的背景の時間軸の分析も必要と思っているのでもう少し掘下げが必要かと感じた。 |
| 榊自然保護官 | ご指摘のように国立公園の管理運営に関係する社会状況のこれまでの変化、今後の変化を考慮する必要はあると思う。議論の素材にできる資料を整理していきたい。                                                |
| 菊池氏    | 管理運営の話しが、夏期を中心としているようだが、積雪期の利用に対する管理をどうするのか、特に安全対策や救助体制などに関して議論していく必要があると思う。                                              |
| 榊自然保護官 | 確かに、積雪期の利用と管理に関しては今まではあまり検討されていなかった点であり、総合型協議会で議論できるものと考えている。                                                             |
| 横須賀氏   | 課題が多岐にわたっているので、今後2回のWSで収まるのか？と感じている。大切なのは、「大雪山をどう利用していくのか」と言う点で、意見だしだけではまとまるのかどうか心配である。                                   |
| 榊自然保護官 | こうしたことはまさに総合型協議会の大雪山ビジョンの議論の中で取り上げて、一定の方向性を出していくべきもの。今回は、その議論の場をどのように設定し、皆さんがどのように関われるかについての意見をいただきたいと思っている。              |
| 黒田氏    | 今後の1市9町の負担金を教えて欲しい。                                                                                                       |
| 榊自然保護官 | 大連協では毎年総額で約100万円程度が1市9町から負担金として支払われている。今後もこの負担金の額を変えずに進めていくことで市町には説明を既に行っているところである。                                       |
| 黒田氏    | 山守隊の活動等に対して材料費などが出る余地はあるのか？                                                                                               |
| 榊自然保護官 | 協議会の負担金からは出し難いが、他の資金源を確保してそうしたことに充てるにはどのようにしたら良いか議論はできると考えている。                                                            |
| 黒田氏    | 今、市町村は何処も予算の余裕が無く、今後の活動といっても予算の裏付けがないと進まないのかなと思って質問した。                                                                    |
| 愛甲先生   | 皆さんが説明でちゃんと理解できているのか少し心配している。協働型管理運営体制や総合型協議会のイメージとして先進事例を紹介してもらおうと、WSでの意見だしが                                             |

楽になるのではないかと思う。

今は手元資料にないが、協働型管理体制としては世界自然遺産の知床国立公園や尾瀬国立公園などで既に行っている。加賀白山でもやっている。これ以外に現在全国8カ所の国立公園で満喫プロジェクトが進行していて、阿寒、十和田八幡平、伊勢志摩、および、霧島錦江湾国立公園などでこうした協議会方式で2020年までにアウトプットを出すような取組が進行しつつある。

## ワークショップ実施結果

参加者27名を2つのグループに分けあらかじめ参加者に通知していたテーマと項目でワークショップ1（以下、WS1）とワークショップ2（以下、WS2）を行った。ワークショップに先立って行われた新たな協働型管理運営体制の構築に関する説明についての質疑の中で、参加者間において説明内容が未消化である様子も窺えたため、WS1では疑問や不安を率直に付箋に書いてもらうように努めた。

またWS1とWS2の「テーマ」、「項目」、「分類」は下記の表のとおりである。WSでは「テーマ」をもとに3つの「項目」について項目ごとに3色の付箋を使った意見だしを行った。2つのグループでそれぞれ出された意見は、ワークショップの最後に時間を設けて、お互いのグループの結果を発表し認識の共有を図った。WS終了後、意見を項目ごとの「分類」に従って整理した。

表 WS1のテーマ・項目・分類

テーマ	新しい協働型管理運営体制について		
項目	心配や関心事	今後参加が必要な人や団体	運営に関するアイデア
分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>人（利用者・管理者に関する内容）</li> <li>資金に関する内容</li> <li>整備やハード面に関する内容</li> <li>趣旨・体制・運営情報発信などソフトに関する内容</li> <li>その他意見（含む、説明がよくわからない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産（ガイド・運輸会社・ホテル・企業）</li> <li>学（研究者・有識者・学生）</li> <li>官（国・道・市町村などの行政機関）</li> <li>民（利用者・民間団体）</li> <li>その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人（利用者・管理者に関する内容）</li> <li>資金に関する内容</li> <li>整備やハード面に関する内容</li> <li>趣旨・体制・運営情報発信などソフトに関する内容</li> <li>その他意見（含む、説明がよくわからない）</li> </ul>

表 WS2のテーマ・項目・分類

テーマ	協働型管理への参画について		
項目	参画への心配事	参画のためのより良い環境とは	新しく試みたいこと
分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>人（利用者・管理者に関する内容）</li> <li>資金に関する内容</li> <li>整備やハード面に関する内容</li> <li>趣旨・体制・運営情報発信などソフトに関する内容</li> <li>その他意見（含む、説明がよくわからない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人（利用者・管理者に関する内容）</li> <li>資金に関する内容</li> <li>整備やハード面に関する内容</li> <li>趣旨・体制・運営情報発信などソフトに関する内容</li> <li>その他意見（含む、説明がよくわからない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人（利用者・管理者に関する内容）</li> <li>資金に関する内容</li> <li>整備やハード面に関する内容</li> <li>趣旨・体制・運営情報発信などソフトに関する内容</li> <li>その他意見（含む、説明がよくわからない）</li> </ul>

## ワークショップ1：「新たな協働型管理運営体制について」の意見だし結果

<テーマ>

「新しい協働型管理運営体制について」

<具体的な意見だし項目>

- ① 「心配や関心事」 …… 意見件数 70 件
- ② 「今後参加が必要な人や団体」 …… 意見件数 33 件
- ③ 「運営に関してのアイデア」 …… 意見件数 28 件

参加者全員から出された全ての付箋の意見を項目ごとにまとめ、意見総数 131 件を分類した結果が下表である。個別の意見とその発表者は「表大雪地域ワークショップ」の最後に示す。

表 表大雪地域の WS1：「新しい協働型管理運営体制について」

分類	心配や関心事	分類	今後参加が必要と思われる人や団体	分類	運営に関するアイデア
人（利用者・管理者）に関する内容	6	産（ガイド、運輸会社、ホテル、企業）	6	人（利用者・管理者）に関する内容	3
資金に関する内容	5	学（研究者・有識者・学生）	7	資金に関する内容	8
設備やハード面に関する内容	3	官（国・道・市町村などの行政機関）	7	設備やハード面に関する内容	1
趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	47	民（利用者・民間団体）	8	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	12
その他の意見（含む、説明がよく分からない）	9	その他	5	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	4
合計	70	合計	33	合計	28

参加者全27名

### ①新しい協働型管理運営体制への「心配事や関心事」について

全部で 70 件の意見が出された。分類すると、47 件が「趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する心配事や関心事」であった。これらの意見は今回の説明だけではよく分からないという状況も含めて新しい体制への民間関係者の不安が現れているものと考えられる。さらにこの分類で「人に関する心配事・関心事」として 6 件挙がっているが、管理側の高齢化や将来的な人材育成を心配する声が多かった。

「資金に関する心配事・関心事」は 5 件で、新しい体制における資金面（予算）の裏づけに対する心配に関することであった。「施設やハードに関する心配事・関心事」は 3 件であった。

### ②新しい協働型管理運営体制への「今後参加が必要と思われる人や団体」について

全部で 33 件の意見が出された。これらの意見を産・学・官・民に分類したが、ほぼ同数の意見が出された。具体的には、一般登山者、地元の農家、アウトドア事業者、およびアイヌ民族などを参加させたいという意見が出た。さらに、広域の関係者で例えば旭川市の関係者にも意見を聞くべきではないかとの意見も出た。一方で、試案のメンバーで十分との意見もあった。

### ③新しい協働型管理運営体制への「運営に関するアイデア」について

全部で 28 件の意見が出された。ここでは運営や情報発信および新たなプログラムなどに関するアイデアがいくつか出ている。その中には協力金の検討などもあり、これらのアイデアは今後の WS にて具体的な議論が行われていくものと思われる。

## ワークショップ 2 : 「新しい協働型管理運営体制への参画」についての意見だし結果

<テーマ>

「新しい協働型管理運営体制への参加について」

<具体的な意見だし項目>

- ① 「参画への心配事」 …… 意見件数 42 件
- ② 「参画のためのより良い環境とは」 …… 意見件数 25 件
- ③ 「新しく試みたいこと」 …… 意見件数 19 件

WS1 と同様に意見総数 86 件の意見を集計し分類を行った。その結果が下表である。個別の意見とその発表者は「表大雪地域ワークショップ」の最後に示す。

表 表大雪地域の WS2 : 「協働型管理への参画について」

分類	参画への心配事	分類	参画のためのより良い環境とは	分類	新しく試みたいこと
人（利用者・管理者）に関する内容	16	人（利用者・管理者）に関する内容	3	人（利用者・管理者）に関する内容	2
資金に関する内容	3	資金に関する内容	4	資金に関する内容	3
設備やハード面に関する内容	1	設備やハード面に関する内容	1	設備やハード面に関する内容	2
趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	11	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	14	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	11
その他の意見（含む、説明がよく分からない）	11	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	3	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	1
合計	42	合計	25	合計	19

参加者全27名

### ①新しい協働型管理運営体制への参画に関する「心配事」について

参画することについての「心配事」には合計 42 件の意見が出された。分類した結果で 16 件と最も意見の多かった「人に関する心配事」は高齢化や人材育成に関することであった。次に「趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する心配事」の分類で 11 件の意見が出た。具体的には、意見の集約が参加者間でできるのか、現場作業以外に会議の運営日程などで参加が可能なのかなどの意見であった。

また、新しい体制が具体的でないので参加が不安といった意見もあった。その他の意見 11 件には、WS1 でも示されたように、説明の内容がよく分からないので参加が不安であるというものも含まれていた。

### ②新しい協働型管理運営体制への参画に関する「参画のためのより良い環境とは」について

この項目に対して出された全 25 件の意見のうち、最も多かった意見は、運営体制や情報発信についての意見であり 14 件であった。多くの人が事務局体制とその運営方法をしっかりと実施していくことを望んでいた。さらには、情報の発信と共有や管理団体の一元化なども望まれていた。

### ③新しい協働型管理運営体制への参画に関して「新しく試みたいこと」について

19 件の意見は多岐にわたっているが、民間資金の調達、SNS を使った情報の共有と発信、活発に発言を行うメンバーでの議論がしたいなどの意見が出された。

## ワークショップのまとめ（学識経験者のコメント）

表大雪地域の WS を終えて、参加いただいた愛甲先生と木村先生にワークショップのまとめとしてコメントを求めた。コメントは以下のとおりである。

木村先生	<p>登山道整備は待たなしの状況下で山守隊が立ちあがって活動をしている一方で、環境省は新たな協働型管理運営体制について関係者の意見を入れつつじっくり議論して立ち上げをしていくという両輪で動いていると認識している。</p> <p>本日の WS の意見から個人や民間団体の思いだけではコントロールできない状況であることは皆様も承知されていると認識したので、「同じ土俵で議論できる場」の必要性を感じた。私のグループでは荒廃した登山道、し尿、外国人対応、情報発信など様々な課題に関して、会員の高齢化、予算の問題、実行部隊など現状の限界を訴える意見が多く出され、推進組織のあり方の議論が必要であると感じた。</p> <p>一方で、外国人対応も急ぐ問題として認識されていた。観光の分野から推進組織として DMO (Destination Management Organization) 概念の導入などは今後大雪山でも必要だと強く感じた。</p> <p>自分は環境省の東北地方環境事務所での仕事で、3 県 28 市町村またがるジオパーク全長 900km に及ぶ「みちのく潮風トレイル」のシステムづくりをしているが、現在まさに推進組織を作ってどうしていくかという段階である。大雪山でも登山道の規模的には同じようなものであり、この経験から急ぐ事柄とじっくりと議論する事柄の両輪で動いていく必要があると感じており、来年度以降も期待したい。</p>
愛甲先生	<p>今回の WS に当たって平成 22 年に行われた登山道情報交換会発足時の WS を思い出した。この時の WS で明らかになったのは、「初期の管理水準がほとんど周知されていなかったこと」および「横の連絡が取れていなかったこと」の 2 点であった。こうした反省から登山道情報交換会ができたわけだが、本日の説明の総合型協議会はまさに大雪山には今後必要なものであると考えている。というのも、世界自然遺産に登録されている、自然再生事業を実施している、国立公園満喫プロジェクトを実施している国立公園では、これらの取組を実施していくために民間も含めて関係者が話合う機会が年 2~3 回程度はあり、今後の国立公園の管理運営のあり方も話し合われる。そうしたことを今後、大雪山でも実施する必要があると思われる。</p>

協働型管理運営体制の検討については、環境省において平成 27 年度から検討調査業務が実施されており、我々有識者もその手伝いをしてきたが、本日の参加者にもこれまでの検討内容を紹介した方がよかったと思った。また、本日出た意見をまとめて、参加していない方々や東大雪地域の方々に速やかにフィードバックしていただくとともに、今後も WS の機会にさらに意見を出し合うことで取組を推進してほしい。

表大雪地域の WS1：「新しい協働型管理運営体制について」の意見と発言者

心配や関心事	発言者
登山道整備維持管理部会のメンバーとしての活動は当面可能だが組織の高齢化でその先の活動は？	内藤
利用減、高齢化を想定した協議が必要	寺島
民間資金を想定する上で、プレイヤーの「仕事づくり」の視点が必要	高橋
登山道修復を担う人材	-
民間、特に市民団体の持続性	愛甲
尾瀬平成27年36万人、大雪山平成27年3.6万人 利用者数の違いを生かし保全ルール整理	横須賀
予算 一市町村からの負担金 予算の裏打ちが無くて十分な活動ができるのか心配	黒田
予算（特に交通費＋装備）	菅原
ezorockのうごき---札幌から旭岳までボランティアを連れてきて自然保護をしています。札幌から旭岳（将来的には他の山）までの交通費が不安、どこから…	菅原
予算は？	愛甲
具体的な行動にあたっての予算の分担。	高橋
修復後のメンテナンス（登山道の場合）を継続して続けなければ整備予算が意味なしになる	佐藤
登山道の荒廃（修復してもすぐ荒れる）	狩野
災害による林道崩壊により登山道コースの廃道化が心配。早急な復旧をのぞむ	藤木
大雪山はどうあるべきかというような本質的な話をする場があるのか？	佐久間
協議課題の中に今後策定されるものがいくつかあるが、これによって関わり方が変わってくるのではないのか？	立原
市町村で国立公園の保全や維持管理の在り方に温度差あり	内藤
多様な主体が参画し、いろいろな意見が出ると思いますが、うまく合意形成ができるのか	小沼
北海道を代表する山岳高原の目的地。ワンストップ窓口は必要。	木村
運営主体（事務局）は環境省とすれば担当者の移動にともない、合意事項、保留事項の引継は担保されるのか、特にPDCAのCとAに係るところ	沓澤
現状調査で、課題とすべき評価方法をどうするか	沓澤
外国人対応、言葉の問題、国や人種によってマナーやルールが大幅に違う	佐藤
利用している人と管理している人に区切りを感じた。	伊藤陽平
実際に利用している人のほとんどに情報が届かない	伊藤陽平
官中心のこれまでの管理運営に対して、広く様々な立場の人・団体から協議できるようにしてきたことに対して強い関心を持っている。	寺島
検討課題が大きくも具体的なので、このままの議論では話が散まになる	寺島
共通の認識が必要（ある程度）なので、国立公園が抱える課題・現状の提示が必要	寺島
将来の人口減、国立公園の利用者数が激減との予想がある中でその将来時間軸をどうみるか提示が必要	寺島
一過性の議論にならないよう対策を	寺島
美瑛富士トレイル管理連絡会は総合型協議会にどうかかわればいいのか？	伊吹
登山道維持管理部会の位置づけは？	伊吹
総合型協議会はどうかかわるのか？	伊吹

問題解決のための方針・計画作りは総合型協議会で作るのか？	伊吹
実行部隊はどこか？	伊吹
今までの体制に一部の民間団体が参加するだけで、本当に大きく体制が変わることになるのか？	伊藤早穂
今までと違う協議になるのか？	伊藤早穂
情報発信体制不足の改善点はどこにあるのか？	伊藤早穂
「民間資金の受け皿となるような～」とはどういったものか。	高橋
登山道の問題は共有されるのか	岡崎
いろんな人たちの言い合い所帯で、「船頭多くして船…」にならないか心配	藤木
リーダーまたは核となる団体はどこか？	藤木
外国人登山客への情報発信（大雪山特有の気象、登山道、小屋などの設備、テント設営のルールなど）	藤木
外国人の安全登山への対応	-
続くのか	大塚
新部会の設立で既存の協議会はどうなる？廃止？統合？	愛甲
保全、登山、観光の各分野をカバーできるか？	愛甲
テーマが大きすぎて具体的なものがよく見えてこない	-
時間をかけて納得のいく説明、話し合いが必要かと	-
しっかりとした運営体制ができるか	片山
公園管理の中核を担う民間団体は成立・設立できるのか？	鳥羽
「総合型協議会」の運営や役割分担の具体例をもう少し知りたい	狩野
総合型協議会ビジョンをつくるだけ？何をやる、決める場なのか？	愛甲
登山道部会の合意形成とは？何について？	愛甲
PDCAを担保する仕組みは？	愛甲
具体的な行動にあたっての管理（責任）の分担。	高橋
具体的な行動にあたっての実施の分担。	高橋
行政と民間のバランス。	高橋
民間がどこまで関われるのか	濱田
行政の管理方針はそれぞれ違う。大丈夫？	岡崎
環境教育の場としての大雪山国立公園の積極的な活用	藤木
自治体・市町村今までの経過と現状を聞きたい、何ができるか計りたい	-
いくつかの国立公園の例もあげられたが、具体的内容が不明でイメージが伝わらない	立原
ドローン対策（登山者の殆どは反対派）沼コースの場合	佐藤
遭難事故が多くなってきている	佐藤
今日の主旨がよくわからない、過去の交換会の延長線上とは思えないが…	佐藤
冬・積雪の利用増、関心増と事故増	菊地
なぜこのWSが必要なのか	岡崎
国立公園利用者（登山道）の安全対策、遭難対策を協議する必要があるのか	藤木
団体人数が多すぎ	-
1グループ10名前後のルール作り	-

今後参加が必要と思われる人や団体	発言者
アウトドア関連企業	木村
旅行会社	木村
情報サービス提供者（マスメディア、プロガー等）	木村
民間企業 観光	片山
広報・マーケティング関係	愛甲
登山を推奨している企業（アウトドアウェア、観光、旅行）	-
哲学者	佐久間
思想家	佐久間
大学などの山岳部	菅原
若い人たち（学生）	-
各大学の山岳部や登山サークルの集まりのようなものもあればその代表	高橋
1市9町に関わる大学	片山
学生等	岡崎
主体的な自治体関係者の参加が欲しい。	寺島
1市9町だけでなく旭川市とか	小沼
教育委員会	片山
道警	菊地
山岳救助隊	菊地
山岳救助関係者（道警など）参加の必要性は？	藤木
うまくいっているという国立公園の人	岡崎
アイヌ民族	佐久間
利用のみの若者世代等を管理に呼び込める情報発信力をもつ団体	伊藤陽平
大雪山国立公園の世界遺産登録、文化遺産登録、ジオパーク登録を目指している団体等	黒田
各地域の愛護少年団	大塚
農家の代表	岡崎
一般登山者（の声）	愛甲
旭岳源水を使っている人	-
ジオパークや日本遺産に関わる関係機関を含めて事業を行う。	片山
今で十分、ないしは多すぎ	内藤
一般登山者の声は？バブコメだけではなく現地アンケートなど	内藤
参加者の方は今回を含め3回のWSを受けているので説明が簡略化できるし、理解が早くて深い	佐藤
大雪山に登らずとも毎日山を見て暮らしている地元の人	岡崎
全く別のジャンルの人達の参加は不要なのか？学生や商工業者…	佐藤

運営に関するアイデア	発言者
大雪山火山をめぐる自然環境実習による人材育成（ツアー）	黒田
ジオをテーマとして解説できる人材育成	黒田
異動しないやる気ある事務局	-
財源（利用者負担）の明確化	内藤
いろいろあるけれど予算がゼロではなかなかできません	岡崎
予算がない民間団体への交通費補助	高橋
金は出せないが労力や知恵は出せる民間団体のために活動資金となる基金のようなものをつくらないか	藤木
登山道部会で会計をもつ、収入どうなる？	愛甲
国立公園への入園料が必要か？	狩野
入園料・入域料を徴収して運営費（財源）を確保する	-
利用者負担を本気で考えるべき	岡崎
冬季（積雪期）に見える道標、目印	菊地
或る程度の合意を得たうえでワンストップ窓口を決め、人・モノ・カネを集約しスタート！	木村
これからの2回の会合はある程度テーマを決めて実施してはどうか	内藤
国立公園管理者、国有林、北海道の体制に対するスタンスの提示	内藤
登山道維持管理部会のメンバーが、連絡協議会の話し合いに、必要な時は参加できると良い（登山道以外の話の時）	下条
どこかの段階で課題ごとのグループ検討を	寺島
幅広い課題だと収集できず生かされない。	-
部会設定を。	-
大雪山の利用とあり方の合意	-
WSの様子など新聞、SNSで発信し参加者の拡大を	横須賀
年に何度もメンバーが一同に集まるのは大変、メールやネットを有効に活用できないか	藤木
取り組みたいこと、やりたいことを提案してもらい、それをメンバーで議論→承認→実施→評価→報告	愛甲
広報面、フォーラム等の実施	菅原
ジオをテーマとしたツアーの実施	黒田
他地域の事例を勉強	愛甲
具体的な案はありませんが整備、啓蒙活動	狩野
管理運営に関わる場合の優遇。例えば、ロープウェイ乗車券プレゼントなど	大塚

発言者欄「-」：付箋に名前の記載がなかった人

## 表大雪地域の WS2：「協働型管理への参画について」の意見と発言者

参画への心配事	発言者
組織の高齢化	内藤
高齢化が進んでいる団体が参画して協力することができるのか	澤崎
国立公園利用者の減！少子、高齢者増	佐藤
各山岳団体の弱体化	佐藤
夏など忙しい時期のガイドさんなどの参加のしかた	下条
参画団体の高齢化の問題で継続参加が難しい	-
人材育成	佐藤
新人教育の前に新人の参加が少なくなってきた	佐藤
果たして保護官が移動する前に解決するのか	横須賀
中核を担う団体としての自負はあるが全員の高齢化が進み、実際の現場の活動については不安がある。	愛甲
今のメンバーの高齢化で運営協議や事業に参加できる人間が将来的確保できるか不安	藤木
若い人の人材育成（今の参加者・高齢化してゆきます!!）	-
継続性（各団体の）研究者ネットワークを	-
ボランティアを送る、広報する上での運転させるか、スタッフを必ずつけるかなど、リスク、責任	高橋
整備の実施にあたって受け入れ団体とその責任がある程度あればボランティア・インターン等、送り出しやすいが難しいことだと感じている（事故等のリスク）	高橋
ボランティアを連れてくるとなると、事故等のリスクが不安	-
問題解決の計画に参画しても予算上の都合で先延ばしにされる心配がある	伊吹
民間の関わり方→有償？無償？	大塚
民間なので活動予算を自分たちで取りに行くが、取れなかったら活動できない	高橋
大雪山グレードの表示が小さくて見ても意味不明な人が多い 表示も大きく!!	佐藤
平日の日中では参加者が限られる	寺島
この議論を生かす方法。記録ををとりフィードバックすること。	寺島
内容について情報発信をいかに。	寺島
協働型参加事業の衰退化	佐藤
開催する日時、場所、移動手段	伊藤早穂
気楽に参画できる環境作りが必要ではないか	澤崎
決まった役割を担い切れるかわからない。その中でどういったことができるかまだ見えていない。どのように求められているのか（求められているか、いないか含め）わからない	高橋
全体の目標が不明確	愛甲
参画しにくい	愛甲
自分はガイドが業。夏期1回に協力できる余裕は小さい。何をどのように誰がやるのか心配。	横須賀
各立場を代表する団体に意見集約できるのか？	鳥羽
入込数による管理の偏重	内藤
途中でハシゴを外されること	佐久間
外国人の大幅増に伴う対応が殆んどできていない、特に山岳環境	佐藤
山岳環境の変化、特にPS、スマホ、その他IT機器の環境外にあるエリアは少なくない、その弊害は多い	佐藤
時間	鳥羽
時間の問題に+1票	菊地
余裕（体力・時間→意欲）	菊地
やってみないとわからないとは思うものの、もう少し知識（前例モデル）が欲しい（自分たちの役割を模索するため）	高橋
協働型管理とは？共通する単純な言葉が必要か？	鳥羽
ケータイトイレは普及しないじゃないか。どこまで目指すのか	横須賀
山の人間は室内では元気がない。現場へ行きたい。	岡崎

参画のためのより良い環境とは	発言者
若者の声だけでなく若者自身が参画できる環境	伊藤早穂
幅広い年齢層	大塚
推進できる中心人物または団体がいること（合意を求め過ぎて進まなくなってしまう）	高橋
事業参加受入体制への支援や原材料の提供先は？	内藤
手弁当で活動している人が多い中で一部の費用を出してあげられれば良いのでは？	立原
協働と云えどタダで働くのは嫌です	横須賀
そこに予算がついていること	-
ピシターセンターの様な施設をふやして活動への参加をうながす	立原
楽しく気持ちよく参画できるような事務局体制。構築。	木村
義務でも強制でもなく自発的に参加できる雰囲気づくり。	木村
PDCAのサイクルが明確に示されることが必要です	伊吹
話し合いの結果がしっかりと現場で反映されること	佐久間
法に縛られすぎると参画しづらくなるのではないか	澤崎
参画して何が議論できるのか、あらかじめテーマを提案を（中心の課題が見えるようにすること）	寺島
議論の素案づくりが必要	寺島
登山道、トイレ、利用、情報発信だけでなく、いろいろな課題に対応できる場にする	小沼
遠くからでも参加できる情報共有できる仕組み	愛甲
常に山などに関する情報を得られる、入ってくる	菅原
様々な機会、情報の共有、核（事務局）、場所（拠点）	-
参加者同志のコミュニケーションが良い方向に取られることによって管理・運営がスムーズにいくと思います。	-
登山道管理については管理団体の一元化がのぞましい	藤木
「カタ・ヒジ」張らずに『ちよこつ参加』だれでもできることを少しという状況を作る	-
10回のWSよりも1回の行動、1回の飲み会？	岡崎
一度、この皆さんと登山道を歩きたい	岡崎
行政の若手をまずは山へ連れていきたい	大塚

新しく試みたいこと	発言者
山のベテランと若者をつなげる・交流させるツアー	菅原
コーディネートできる人、団体による長期休暇中の学生向け整備プログラム。翌年へと続けていく。	高橋
民間からの資金集め	佐久間
大雪山ファンクラブ基金の設立	愛甲
民間資金を活用した（企業等の書付）大雪山基金の創設	藤木
冬用の導標（暑寒？八幡平？）	菊地
現在使用できない登山道を復元整備できないか	藤木
大雪大切キャンペーン 参画しなくちゃと思わせるための理念共有のためのアドバルーンあげる	木村
情報の共有化としてネットワーク（SNS）を活用する	沓澤
海外からの入山客に対して統一されたマニュアルをつくり、説明する場と要員を確保する	沓澤
一般登山客からの声が届く場があるとよい	下条
ヒグマ生態観察結果の資料の活用を図り、解析、分析、発表まで仕上げる。ヒグマ情報センター	佐藤
それぞれの活動期と実動の発表により、参画する分野の明確化	横須賀
今の大雪の状況を大々的に知らしめるTVなど利用して、そして理解を求める	狩野
有志の整備をサポートする体制（道具、予算、専門家、指導者の派遣）	高橋
深い議論・決定ができる「運営メンバー」と共有があり情報交換などを行う「協議会メンバー」をわけてスピードを出す	高橋
今回の意見を生かせるもの、生かせない部分の色分けを	横須賀
WS3回終わった時点で整理記録を！	横須賀
大雪山フォーラム立て直し 当初は研究者ネット企画大連協主催一市九町もちまわり それなりに関係者あつまり終了後に交流もあった	愛甲

発言者欄「-」：付箋に名前前の記載がなかった人

## **東大雪地域ワークショップの記録**

**日時:平成 30 年 3 月 15 日(木) 13:30~16:30**

**場所:とかちプラザ 403 会議室 (帯広市)**

平成29年度 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の  
構築に向けて民間団体の皆様の関わりと対応を考えるワークショップ  
参加者一覧

	所属	氏名
1	合同会社北海道山岳整備	岡崎 哲三
		下條 典子
2	新得山岳会	小西 則幸
3	ひがし大雪自然ガイドセンター	河田 充
4	ポレアルフォレスト	阿久澤 小夜里
5	十勝山岳連盟	齊藤 邦明
6	(株)りんゆう観光	佐藤 竜也
		白石 真介
7	北海道大学大学院 地球環境科学研究院	教授 渡辺 悌二
8	北海道大学大学院 農学研究院	准教授 愛甲 哲也

## ◇ 東大雪地域ワークショップ

WSの結果として、質疑応答の内容、WSでの意見だしの結果、WSのまとめ（学識経験者のコメント）を以下に示す。

### 質疑応答

- |        |                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 河田氏    | 上士幌側は国有林であり、登山道の整備で何をするにしても土地所有制度による制約があり、国立公園制度と二重行政となっていて困っている。                                                                                                                                   |
| 榊自然保護官 | そこは難しい問題で、法律や制度の部分は変えられないので、運用面をいかに工夫してうまく現場でやっていくのかということになる。今日ご説明した新たな体制をつくることにより、運用をどうするかも話し合うことができるのではないかと思います。                                                                                  |
| 小西氏    | 今回説明された協働型管理運営体制というのは、環境省がパークボランティアを動員して管理作業することには限界があるので、他の民間団体もパークボランティアと同様に管理作業の実働に加わってほしいという願いとして当初捉えたが、違うのか？そのような実働でなく方針や計画を皆で協議する場をつくると考えて良いのか？ ザックを背負って何かしてくれということではないということが良いのか。            |
| 榊自然保護官 | 今回の話は、国立公園の将来像を皆でどう作るのかの議論の場をつくりたいと考えており、そこに皆さんがどのように関われるのかということの話。現行の大連協のメンバーは限られているので、ここに皆さんにも関わっていただきたいと考えている。                                                                                   |
| 斎藤氏    | 北海道の登山者は20万人いると言われているが、そのうちで団体として活動できる者は1%位のものだ。団体の高齢化により、各団体で活動できる人は団体の1割程度で、少なくなる一方であると思われる。また、団体に所属していない一般登山者の意見をどう取り入れていくのかも心配している。                                                             |
| 榊自然保護官 | 未組織の登山者の意見をどう吸い上げるかは悩ましいところ。まずは、地元の関係者がどうしていくのかをしっかりと議論して出す。そして、フェイスブックをはじめSNSから意見を把握したり、パブリックコメントなどを通じて意見を聞くことなど様々な方法が考えられる。いずれにしても未組織登山者の件は課題と言うかキーになってくると思う。                                     |
| 岡崎氏    | 「話し合いの場を作りたい」、「人を集めたい」という話をされているが、その結果としてどういう結論を出したいというのか、榊氏の考えを聞きたい。                                                                                                                               |
| 榊自然保護官 | 登山道に関わっている関係者の皆様には、スライドで紹介したパブリックコメントやオブザーバーによる関わり方よりは、もっと積極的な関わりをしてほしいと希望している。ただ、具体的にどう関わるかについては、皆さんに押し付けるものではないため、私からは控えたい。                                                                       |
| 岡崎氏    | このメンバーで重要なのは、登山道の浸食をどう食い止めるかの結論であって、話し合っただけでどうこうではないし、話しても浸食を止めるという一点に結論がまとまらないのではと不安である。行政は管理責任の一端があるので榊氏が、今後大雪山をどうしたいのかが知りたいと思った。「地元の人で話し合っただけ」ではなく「地元の一つが環境省」だと思う。本日は表大雪に比べて人数も少ないので思いきって聞いてみたい。 |

延長 300km の登山道全体が荒廃しているので、管理がすべて行き届いた状態を作ることが理想。環境省だけでは現実問題として限界があり、現状で管理が及ばない部分、不足している部分について、今後どうしていくかを皆で知恵を出していき解決していくしかないと考えている。地元を突き放しているのではなく、地元の一員とも考えていることは御理解いただきたい。

## ワークショップ実施結果

東大雪地域で行った WS と同じ実施手順により参加者 10 名全員を 1 グループとして WS を実施した。

## ワークショップ1：「新たな協働型管理運営体制」についての意見だし結果

<テーマ>

「新しい協働型管理運営体制について」

<具体的な意見だし項目>

- ① 「心配や関心事」 …… 意見件数 27 件
- ② 「今後参加が必要な人や団体」 …… 意見件数 13 件
- ③ 「運営に関してのアイディア」 …… 意見件数 10 件

参加者全員から出された付箋の意見を項目ごとにまとめ、意見総数 50 件を分類した結果が下表である。個別の意見とその発表者は「東大雪地域ワークショップ」の最後に示す。

表 東大雪地域の WS1：「新しい協働型管理運営体制について」

分類	心配や関心事	分類	今後参加が必要と思われる人や団体	分類	運営に関するアイデア
人（利用者・管理者）に関する内容	3	産（ガイド、運輸会社、ホテル、企業）	3	人（利用者・管理者）に関する内容	0
資金に関する内容	0	学（研究者・有識者・学生）	2	資金に関する内容	0
設備やハード面に関する内容	7	官（国・道・市町村などの行政機関）	1	設備やハード面に関する内容	0
趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	7	民（利用者・民間団体）	3	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	3
その他の意見（含む、説明がよく分からない）	10	その他	4	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	7
合計	27	合計	13	合計	10

参加者全10名

### ①新しい協働型管理運営体制への「心配事や関心事」について

全部で 27 件の意見が出された。そのうち最も多かった 10 件がその他の意見に分類されていて、具体的には管轄する行政体制への疑問や新しい協働型管理運営体制の具体的なイメージが出来ないといったことであった。人に関係する心配事は表大雪と同様に高齢化や人材育成に関するも

のであった。施設への心配も7件あった。この中には、アクセス道路の不通箇所が多いことやトイレブースの促進に関する意見が含まれていた。また、体制や運営などについては、現場での具体的な問題にどのように結びついていくのかといった疑問や不安の声が7件あった。

## ②新しい協働型管理運営体制への「今後参加が必要と思われる人や団体」について

全部で13件の意見が出された。具体的には、一般登山者、動物専門家、および地元の教員などであった。さらに、表大雪同様に広域の関係者で例えば帯広市関係者にも意見を聞くべきではないかとの意見も出た。表大雪との人材交流も意見としてあった。

## ③新しい協働型管理運営体制への「運営に関するアイデア」について

全部で10件の意見が出された。総合型協議会と民間団体の位置づけを明らかにすることや、議論の内容を具体的に望む意見が出された。フォーラム開催や表大雪との合同情報交換会などの提案も出された。

## ワークショップ2：「新しい協働型管理運営体制への参画」についての意見だし結果

<テーマ>

「新しい協働型管理運営体制への参画について」

<具体的な意見だし項目>

- ① 「参画への心配事」 …… 意見件数 9件
- ② 「参画のためのより良い環境とは」 …… 意見件数 8件
- ③ 「新しく試みたいこと」 …… 意見件数 8件

WS1と同様に全ての付箋の意見を集計し意見総数25件を分類した結果が下表である。個別の意見とその発表者は「東大雪地域ワークショップ」の最後に示す。

表 東大雪地域のWS2：「協働型管理への参画について」

分類	参画への心配事	分類	参画のためのより良い環境とは	分類	新しく試みたいこと
人（利用者・管理者）に関する内容	5	人（利用者・管理者）に関する内容	0	人（利用者・管理者）に関する内容	0
資金に関する内容	0	資金に関する内容	0	資金に関する内容	1
設備やハード面に関する内容	0	設備やハード面に関する内容	0	設備やハード面に関する内容	0
趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	1	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	5	趣旨・体制・運営・情報発信などソフトに関する内容	2
その他の意見（含む、説明がよく分からない）	3	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	3	その他の意見（含む、説明がよく分からない）	5
合計	9	合計	8	合計	8

参加者全10名

### ①新しい協働型管理運営体制への参画に関する「心配事」について

参画についての「心配事」には9件の意見が出された。その内、5件が管理する側のマンパワーの減少についての心配であった。具体的には表大雪地域と同様に高齢化と若者の人材育成がその主たるものであった。

その他には、マンネリ化や年々の負担増加を懸念する意見も出た。

### ②新しい協働型管理運営体制への参画に関する「参画のためのより良い環境とは」について

全8件の内、運営などへの意見が5件と多かった。具体的には参加する意義や立場を明確にしてほしいことや、許認可の簡素化などが望まれており、より実践の現場に即応したものが多かったようである。逆に大雪山全体での協議課題などに関しては参加者間で理解があまり得られなかった様子であった。

### ③新しい協働型管理運営体制への参画に関して「新しく試みたいこと」について

8件の意見が出された。民間資金の調達、情報の一元化、外国人対応などの将来的な試みに対する意見が出た。

## ワークショップのまとめ（学識経験者のコメント）

東大雪地域のWSを終えて、参加いただいた愛甲先生と渡辺先生にワークショップのまとめとしてコメントを求めた。コメントは以下のとおりである。

愛甲先生	<p>最初のワークショップでは心配事が多く出て、ほとんどが「いいね」の手が挙がっていたので、この意見をまとめて皆さんにフィードバックしていただきたい。</p> <p>一方、協働型管理運営体制や総合型協議会について皆さんは必ずしもイメージができて理解していないように感じられた。表大雪地域のワークショップには木村先生に来ていただき、「みちのく潮風トレイル」や「信越トレイル」の例が挙げられたが、そのような具体的な話をしてもらう必要があると感じた。</p> <p>東大雪と表大雪では面積、山の奥深さ、およびアクセス道路などにおいても状況が違うので、付箋の意見を表大雪と東大雪で相互にフィードバックと共有をしてほしい。今後のWSでは森林管理署の方や役場関係者がいた方が良いと思った。</p>
渡辺先生	<p>協働型管理運営体制の進め方やその場で議論のする内容について説明があったが、大連協を拡大させて総合型協議会にすることをトップダウンでやる感じがした。同じ土俵でやっていく、同じレベルでの入り方をしていくという雰囲気を出さないと関係者は積極的になれないし、高齢化の問題、お金の問題、および許認可の問題など様々なハードルを乗り越えられないのではないか。そのような姿勢を環境省が明確に伝えてくれないと次の段階に行けないのではないか。</p> <p>2回目以降のWSについては、総合型協議会と登山道維持管理部会を明確に分けて議論しないと、議論がどこに行くのか心配である。</p>

## 東大雪地域の WS1：「新しい協働型管理運営体制について」の意見と発言者

心配や関心事	発言者
現場で動ける人材の育成難、危険な作業のため	河田
若者はいるのか？	愛甲
登山者の安全確保	佐藤
2016台風により登山道が不通→登れない山が多い	河田
登山道の整備が入山者のニーズに間に合うのか？	齊藤
林道、登山口の状況	愛甲
登山道に至る林道問題（整備）はどうなるのかな	小西
登山口への林道不通の長期化	河田
ニベツツポロカコースの利用増加による登山道の水路化	河田
携帯トイレプースの促進運動	-
話し合いの場があってもまとまるのか？とくに行政	岡崎
ビジョンや方針と云われても、関心事は、登山道整備・トイレ・避難小屋になる	小西
保全VS利用促進 意見の対立があるのでは？	白石
一般登山者も含めた関係者、団体 ひろえているか。	愛甲
もしお金が集まり、直すぞ!!となったとき、行政は覚悟できるのか	岡崎
環境省の立ち位置がわからないで、皆ついていけるのか	渡辺
登山道の問題と野営指定地の問題をセットにして考える必要がある	渡辺
整備主体の地権者は？環境省・林野庁	河田
登れない山が多い為、地元への客が減少	河田
地元の山への興味の減衰	河田
パークボランティアの拡大版みたいな管理の実践部隊にはならないですヨネ	小西
東大雪地域には思い入れが強いが、大雪山全体には弱い。	小西
軽微な手直ししたいが、保安林の問題があり勝手にできない	河田
国立公園として一律のとりきめが良い部分と？の部分が出てきそう	阿久澤
ニベツツ山前天狗トイレプースの更新、どうも環境省も及び腰	河田
国有林の意向	愛甲
利用者全体の問題なので、その雰囲気、流れも作っていく必要がある…	阿久澤

今後参加が必要と思われる人や団体	発言者
山岳ガイド（他地域や全道、全国レベル）	愛甲
十勝の広域観光の関係者	愛甲
スポンサー	渡辺
野生動物研究者	愛甲
学校（地元）の先生	岡崎
帯広市など周辺自治体	愛甲
未組織・一般登山者の参加できなければアンケート等の意見も欲しい	齊藤
観光協会	愛甲
自然保護団体を煙たく思っているのか、関りが薄いように感じる。煙たいからこそ必要かも	上村
個人の登山者またはそれをくみあげられる人	阿久澤
東大雪には表大雪の人	岡崎
表には東の人	岡崎
前の自然保護官	岡崎

運営に関するアイデア	発言者
まず全体の「拡大大連協」と中核民間団体の関係を明確にすること（議論を始める前に）	渡辺
大連協の人と民間の人が一緒に議論する場が必要	渡辺
「総合型協議会」と「登山道維持管理委員会」の内容が明確でないままに議論を始めているのではないか	渡辺
意見出しただけならばメールでよい、メールは出さないけどね	岡崎
多数意見が良い意見とはかぎらない	岡崎
チェーンソー、刈払機などの現場での講習	河田
皆さんで山に登りましょう	岡崎
整備等、協力一般登山者（ボランティア）の登録等、点数などあたえる	齊藤
登山道や協働型管理をテーマにした大雪山フォーラム	愛甲
表大雪と合同の情報交換会	愛甲

発言者欄「-」：付箋に名前の記載がなかった人

## 東大雪地域の WS2：「協働型管理への参画について」の意見と発言者

参画への心配事	発言者
私自身の行動力の低下	河田
後継者の育成	河田
自分の組織が世代交替した時の温度差が心配	小西
参画する後継者を育てられるか	齊藤
若者・学生をどうやって取り込むか	渡辺
100万円集めた？地図作って配る？大連協は役に立つのか？	岡崎
マンネリ化（5年後？、10年、20年後）	愛甲
負担の増加（実動もアイデア出しも）	愛甲
どこに視点を置いて考えていけばよいのか…	阿久澤

参画のためのより良い環境とは	発言者
地元観光関係者の理解と協力	河田
自由に山のあり方を考えられる場	齊藤
参画する立場	愛甲
参画する意義	愛甲
立場をくずして目的を共有し、一緒に新しいものをつくりあげていく気持ち	阿久澤
許認可の一元化	河田
整備のスピードup	河田
許認可の簡素化	渡辺

新しく試みたいこと	発言者
民間の助成金を利用して整備	河田
マスコミへのアピール	河田
大雪山の情報一元化	岡崎
外国人に情報を与えるシステム作り	渡辺
外国人の意見を集めて協議会にフィードバックする	渡辺
「登山道ツアー」の実施	渡辺
登山道整備カルテの改善	渡辺
動植物が成育できる環境づくり	齊藤

発言者欄「-」：付箋に名前の記載がなかった人

## 【配布資料】

### 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて 民間団体の皆様の関わり方と対応を考えるワークショップ

＜表大雪地域＞

日時：平成30年3月7日（水）13:30～

場所：上川総合振興局3階講堂

＜東大雪地域＞

日時：平成30年3月15日（木）13:30～

場所：十勝プラザ403会議室

## プログラム

1. 開会
2. 大雪山国立公園における新たな協働型管理運営体制の構築に関する説明（30分）
3. 質疑応答 20分  
休憩（10分）
4. ワークショップその1（45分）  
新しい協働型管理運営体制について、民間団体としての「心配や関心事」・「今後参加が必要と思われる人や団体」・「運営に関するアイデア」などの意見出しと発表
5. ワークショップその2（45分）  
協働型管理への参画について、各民間団体からの「参画への心配事」・「参画のためのより良い環境とは」・「新しく試みたいこと」などの意見出しと発表
5. ワークショップまとめ（20分）  
ワークショップ全体のまとめとして有識者からのコメント

**資料1** は  
参加者名簿のため  
省略します。

## 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて 民間団体の皆様の関わり方と対応を考えるワークショップ 開催要領

### 1 協働型管理運営体制とは

国立公園に係る環境省以外の国の機関、自治体、民間団体、公園事業者など多様な主体が参画し、国立公園の将来像（ビジョン）、国立公園の管理運営方針や行動計画を定める取組を行う総合型協議会を中心とする体制です。

全国の国立公園で準備が整い次第、この体制を構築することとされました（平成26年7月7日付け環境省自然環境局長通知）。

### 2 大雪山国立公園の課題と協働型管理運営体制を進める必要性

大雪山国立公園では、①登山道の荒廃、野外のし尿の散乱といった課題、②川、湖沼、温泉、峡谷等の自然資源の利活用や外国人の対応に関する課題、③これらの取組を行うための一元的な合意形成と情報発信体制の不足が課題です。

これらの課題を解決するためには、参加者が限定的な大雪山国立公園連絡協議会（環境省、北海道、市町から成る）、個別地域の個別の課題に対応するための協議会（例：各地の登山道維持管理連絡協議会など）では、対応することができません。

### 3 ワークショップ開催の趣旨と目的

北海道地方環境事務所では、課題解決を大きく前進させるため、既存の大雪山国立公園連絡協議会を「総合型協議会」に拡充し、その下に「登山道維持管理部会」を設けることで、産学官民による協働型管理運営体制を構築したい考えです。

大雪山国立公園の管理運営や利用状況を踏まえると、この協働型管理運営体制に、登山道の整備や維持管理、登山利用、ガイド利用をされている民間団体の皆様に参画いただくことは不可欠です。

そこで、民間団体の皆様が、協働型管理運営体制にどのようにかかわり、対応していくべきかを考えるワークショップを行います。

### 4 ワークショップの内容

ワークショップは3回程度（自由な意見・アイディア出し→論点整理と議論→とりまとめの三段階程度）を想定し、今回は最初の「自由な意見・アイディア出し」の部分を実施します。

ワークショップでは、

- ①環境省から新たな協働型管理運営体制の案（大雪山国立公園連絡協議会を拡充した総合型協議会、登山道維持管理部会）について説明します。
- ②この協働型管理運営体制に、民間団体の方がどのように関わることができるか、意見交換をします。
- ③具体的には、「登山道維持管理部会」については既存の情報交換会を移行し皆さまにも継続してご参加いただきたいと考えていますので、特に国立公園の将来像（ビジョン）、国立公園の管理運営方針や行動計画を議論する「大雪山国立公園連絡協議会を拡充した総合型協議会」に民間団体がどのように関わることができるか、意見交換をします。

## **5 ワークショップへの参加を呼びかける方**

○表大雪および東大雪登山道関係者による情報交換会に御出席の、行政を除く民間団体（別表リスト参照）に参加を呼びかけます。

○また、大雪山国立公園の協働型管理運営体制に関する有識者にご参加いただきます。

- ・渡邊 悌二氏 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授
- ・愛甲 哲也氏 北海道大学大学院農学研究院 准教授
- ・木村 宏氏 北海道大学観光学高等研究センター 特任教授

## **6 ワークショップの概要**

### **(1) 主催（事務局）**

環境省上川、東川、上士幌自然保護官事務所

（※運営は、環境省請負業務により、株式会社ライブ環境計画により実施）

### **(2) 日程等**

「表大雪地域」と「東大雪地域」の2会場で開催します。内容は同じです。

#### 1) 表大雪地域

日時：平成30年3月7日（水）13:30～16:30の3時間

場所：上川総合振興局3階講堂（旭川市永山6条19丁目）

#### 2) 東大雪地域

日時：平成30年3月15日（木）13:30～16:30の3時間

場所：十勝プラザ403会議室（帯広市西4条南13丁目1番地）

### **(3) プログラム**

\*開会（目的、全体スケジュール及びワークショップの説明）（15分）

\*大雪山国立公園における新たな協働型管理運営体制の構築に関する説明（30分）

\*質疑応答（20分）

\*休憩（15分）

\*ワークショップその1（40分）

- ・新しい協働型管理運営体制について、民間団体としての「心配や関心事」・「今後参加が必要と思われる人や団体」・「運営に関するアイデア」などの意見出しと発表

\*ワークショップその2（40分）

- ・協働型管理への参画について、各民間団体からの「参画への心配事」・「参画のためのより良い環境とは」・「新しく試みたいこと」などの意見出しと発表

\*ワークショップまとめ（20分）

- ・ワークショップ全体のまとめとして有識者からのコメント

# 大雪山国立公園における 協働型管理運営体制の構築に向けて

平成30年3月7日(水):表大雪会場  
平成30年3月15日(木):東大雪会場

上川自然保護官事務所  
東川自然保護官事務所  
上士幌自然保護官事務所

## 大雪山国立公園の課題

- ◆ 登山道の荒廃、野外のし尿の散乱
- ◆ 麓の川・湖沼・温泉・峡谷などの利活用、外国人対応
- ◆ 一元的な合意形成と情報発信体制の不足

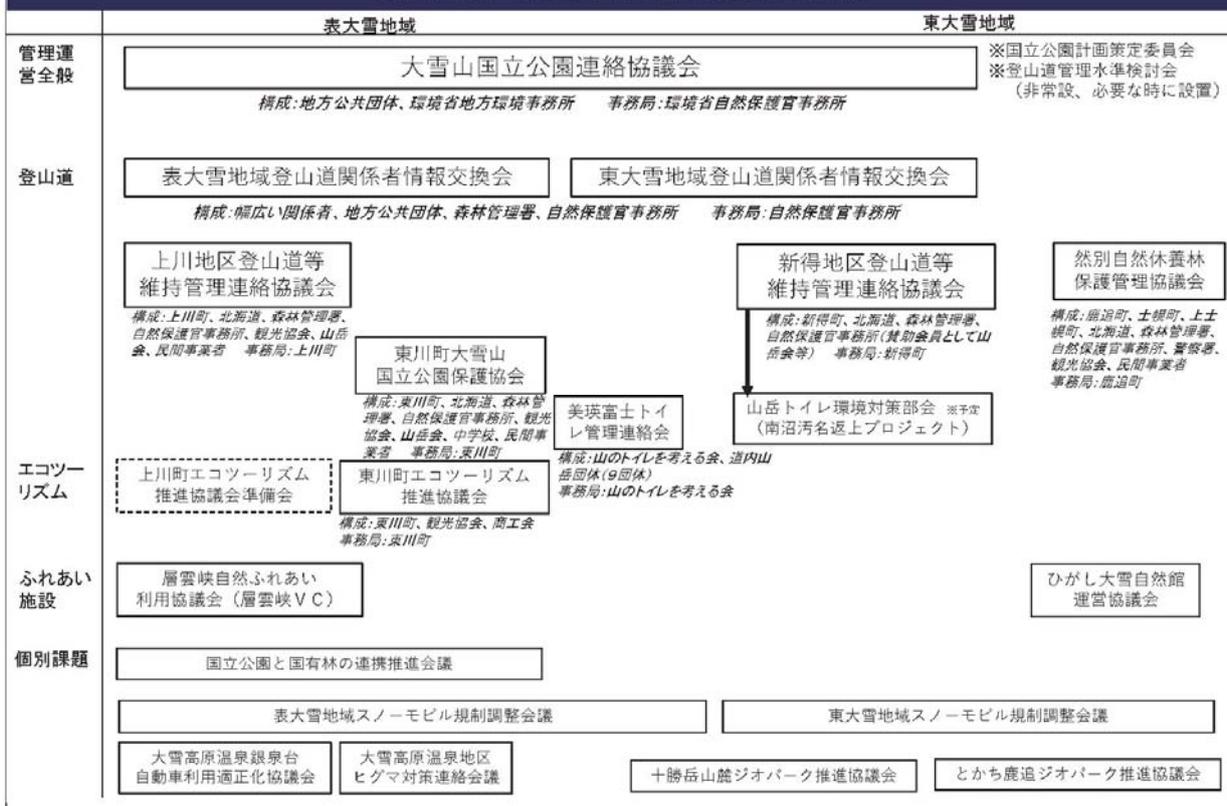


# 大雪山国立公園の目指す姿（仮）

- ▶世界の登山者・旅行者の憧れの的となる広大で原生的な山岳景観
- ▶管理の行き届いた魅力がある延長300kmの登山道
- ▶温泉・峡谷・湖・雪～大雪山のふもとを遊びつくすツーリズム・自然体験の宝庫
- ▶環大雪山の連携、若い力を中心にした大雪山の魅力づくり、魅力発信、大雪山ブランドの確立

(※) 新たな協働型管理運営体制のもとで議論すべきものであるが、目指すイメージとなるもののたたき台は必要なので、試案として記載。

## 大雪山国立公園の管理運営体制の現状



## 大雪山国立公園の管理運営体制の現状

▶例えば、将来像（ビジョン）を議論する場合・・・

	十分な点 メリットのある点	不十分な点 デメリットがある点
大雪山国立公園 連絡協議会	国立公園の管理運営体制に関する幅広い議論が可能	参加者が限定的 (環境省・北海道・市町)
登山道関係者による 情報交換会	関係する多様な主体が参加する体制ができている。	登山道（高山帯・山岳地）の問題を中心に議論、山麓部を含めた国立公園全体の議論が不十分。 情報交換の場であるため、合意形成をする訳ではない。
各地の登山道維持管理連絡協議会など各協議会	関係する多様な主体が参加する体制ができている。	地域限定的、議論する課題が個別的で国立公園全体のことを議論する体制にない。

**将来像を議論する体制として十分か？**

## 国立公園の協働型管理運営体制の構築

<協働型管理運営体制とは？>

- 国立公園に関する環境省以外の国の機関、自治体、民間団体、公園事業者など多様な主体が参画する  
総合型協議会を中心とする体制
- 国立公園の将来像（ビジョン）、  
国立公園の管理運営方針、行動計画を定める取組を行う。



- 全国の国立公園で、準備が整い次第、協働型管理運営体制を構築することとされた(平成26年7月7日付け環境省自然環境局長通知)。

**大雪山国立公園ではどのように対応するか？**

# 目指す姿を実現するための体制（案）

- ①現在の**大雪山国立公園連絡協議会のメンバーを拡充し、総合型連絡協議会**として位置付け。  
 ※特に**国立公園の将来像（ビジョン）**、**国立公園の管理運営方針**や**行動計画**を議論する。
- ②**総合型協議会の下に表大雪・東大雪の地域別に、登山道維持管理部会**を設置。  
 ※登山道の**維持管理のための合意形成**、**総合調整**を行う。
- ③**大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成**を目指す。

平成 30 年 3 月 WS 資料

## 大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制(案)

- <ポイント>**
- ①現在の**大雪山国立公園連絡協議会**のメンバーを拡充し、**総合型協議会**として位置づけ(大雪山国立公園のビジョンや課題解決のための方針や計画について関係者で協議)。
  - ②**総合型協議会**の下に**地域別に登山道維持管理部会**を設置する(登山道等の維持管理のための調整や合意形成)。
  - ③**大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成**を目指す。

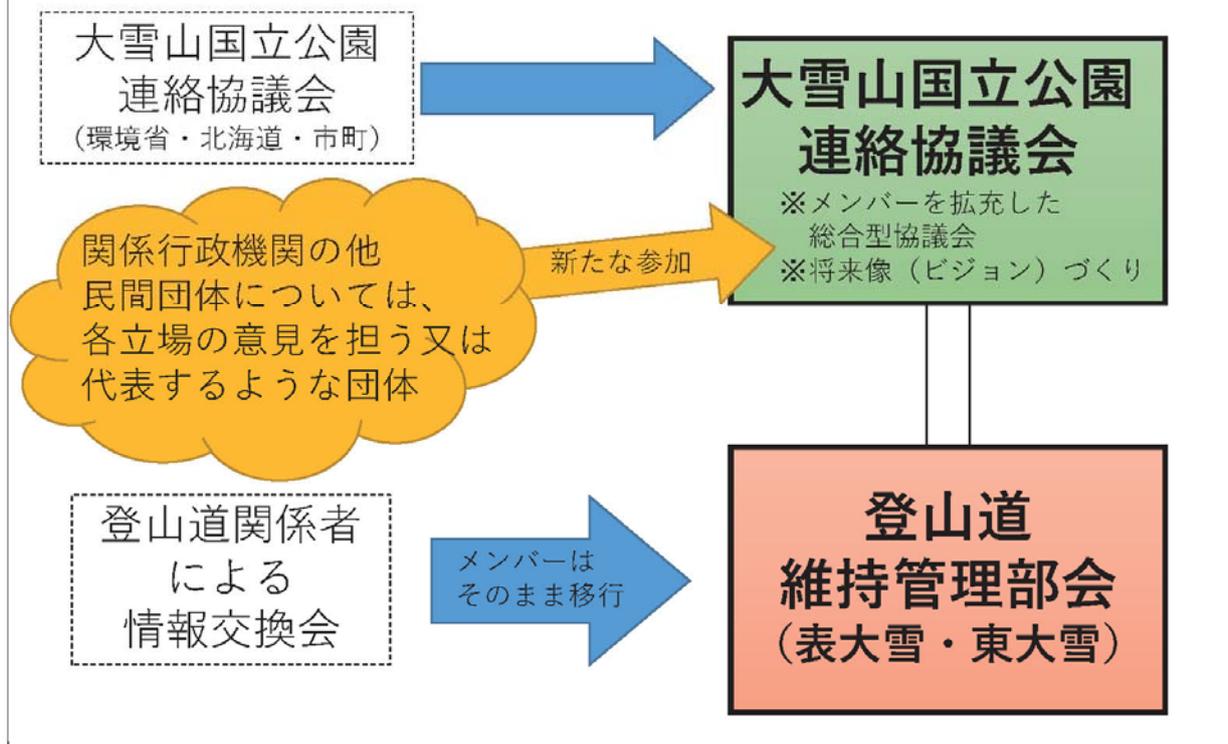
大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)	
<p><b>&lt;役割&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園のビジョン作成</li> <li>・国立公園の利活用や保全上の課題の解決についての方針・計画作り</li> </ul> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省、北海道、1市9町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</li> <li>・関係行政機関(上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、旭川開発建設部、帯広開発建設部、北海道運輸局)</li> <li>・観光関係者(ふらの、厚岸線、ひがしかわ、楽瑛、かみふらの十勝岳、南富良野まちづくり各観光協会)</li> <li>・ロープウェイ事業者、バス事業者、国立公園管理の中核を担う民間団体</li> <li>・自然保護団体、研究者(大雪山研究者ネットワーク)、ビジターセンター関係者</li> </ul> <p><b>&lt;協議課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①国立公園のビジョン、利活用、課題解決のための方針・計画づくり</li> <li>「大雪山国立公園連携・イノベーション宣言」パートナーシップ事業開始(2018年目標)</li> <li>「大雪山国立公園ビジョン」の作成(2020年公表目標)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳地域の上質な空間の保全(大雪山縦走路の活用)</li> <li>・利用可能な資源の開拓、高付加価値のツーリズムの展開</li> <li>・利用拠点の活性化</li> <li>・公園内外の連携・プロモーション促進(ターゲットとそれに応じた利用メニュー開発)</li> <li>・外国人登山者の適切な利用促進に向けた活動</li> </ul> </li> <li>・利用者負担(協力金)のあり方検討</li> <li>「大雪山国立公園管理運営計画」策定(2020年作成目標)</li> <li>「大雪山国立公園登山道管理水準」改訂(2021年作成目標)</li> <li>②情報の一元化と情報発信(民間団体が育成されるまでの当分の間)</li> </ul> <p><b>&lt;予算&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1市9町からの負担金(従前の大雪山国立公園連絡協議会の負担金の金額を変更せずに継続)</li> </ul> <p><b>&lt;事務局&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境省(業務の一部を民間団体に請負)</li> </ul>	<p>※大雪山の場合ステークホルダーが多いので、例えば「宿泊施設の意向については観光協会が代表する」などの関係者間の関係を明らかにする。                  ※土幌、上士幌、鹿追、新得の観光協会は役場に同じ</p> <p><b>&lt;幹事会&gt;</b>                  担当者による連絡調整</p> <p><b>必要に応じた作業部会</b></p> <p><b>&lt;役割&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>方針・計画づくりに関する実質的な議論</li> </ul> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合型協議会メンバーから手上げ方式により選出</li> </ul> <p>※議論の内容によってはメンバー外の出席を求め、意見を聴くことができる。</p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境省</li> </ul>

表大雪登山道維持管理部会(※)	東大雪登山道維持管理部会(※)
<p><b>&lt;役割&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登山道等の維持管理活動に関する総合調整と合意形成</li> </ul> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園制度・環境省、土地所有者：森林管理署、北海道</li> <li>・歩道事業執行者・関係市町：北海道、1市5町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町)、りんゆう観光</li> <li>・国立公園管理の中核を担う民間団体</li> <li>・山岳関係者、ガイド事業者</li> <li>・保全活動団体(パークボランティア等)、整備の専門家</li> <li>・研究者、自然保護団体等</li> </ul> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①維持管理活動のPDCAサイクル実施と検証</li> <li>・歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討</li> <li>活動の広報、人材育成(受け、ホテラ(貸入)、技術の蓄積と伝承)</li> <li>の登山道等維持管理の適正化に向けた議論</li> <li>・歩道事業未執行区間の解消</li> <li>・施設の老朽化対策</li> </ul> <p><b>&lt;事務局&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境省(業務の一部を民間団体に請負)</li> </ul>	<p><b>&lt;役割&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> </ul> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左の中で東大雪に関わる者と関係4町(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</li> </ul> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> </ul> <p><b>&lt;事務局&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> </ul>

※お手元の資料には、A3版の表とメンバーについてはリスト化した案を添付

(※)総合型協議会とは独立して準備を進め、両方が成立した時点で協議会とその部会との関係になることも想定。個別の事業者は各立場を代表する団体に出席を求め、オブザーバーとなるように推奨。

## 民間団体の関わり方①



## 大雪山国立公園ビジョンの作成

- 大雪山国立公園の課題を解決し、目指す姿を実現するためには、  
協働型管理運営体制の下で、  
国立公園の将来像(ビジョン)を描くことが必要。
- 将来像(ビジョン)を議論するうえで、登山道の整備や維持管理、登山利用、ガイド利用をされている登山道関係の民間団体の皆様に参画いただくことは不可欠。

## 大雪山国立公園ビジョンの議論で 想定される論点

山岳地域の上質な空間の保全  
＝縦走路の活用(大雪山グランドトラバース)



(写真引用) <http://www5a.biglobe.ne.jp/~vahho/kuro~tomu.htm>

## 大雪山国立公園ビジョンの議論で 想定される論点

国立公園内外の連携、プロモーションの促進



(写真引用) <http://www.sounkyo.net/photo/index.php?kind=1> [https://blogs.yahoo.co.jp/hiro\\_pon7214/22886547.html](https://blogs.yahoo.co.jp/hiro_pon7214/22886547.html) (右上)

# 大雪山国立公園ビジョンの議論で 想定される論点

## 利用者負担(協力金のあり方検討)



(写真引用) <https://4travel.jp/travelogue/10793377> <http://www.souunkyo.net/photo/index.php?kind=1>

## 民間団体の関わり方②

- 総合型協議会参画は、各立場の意見を担う、代表する者であることが必要。
- 登山道関係の民間団体はどのように総合型協議会に関わることができるか？

○国立公園管理の中核を担う民間団体

(新規団体、ネットワーク団体、信任・委任型団体)

○登山道部会を通じた関わり

○パブリックコメントを通じた関わり

○オブザーバーを通じた関わり

## 民間団体の関わり方③

一方で、

- ワークショップの意見だしから生まれた「登山道関係者による情報交換会」
- まずは、民間団体としての心配や関心事、国立公園全体の管理運営に関するアイデアなど、幅広く考えを出し合うことで、関わり方が見えてくることもあるのではないか？

## 今後のスケジュール

- ◆総合型協議会については、「準備会」を開催して、平成30年度には立ち上げを目指す。
- ◆民間団体の総合型協議会への関わり方については、平成30年度にさらに2回程度ワークショップを経て、方向性を探りたい。

## 大雪山国立公園における新たな協働管理運営体制(案)

- <ポイント>**
- ①現在の大雪山国立公園連絡協議会のメンバーを拡充し、総合型協議会として位置づけ(大雪山国立公園のビジョンや課題解決のための方針や計画について関係者で協議)。
  - ②総合型協議会の下に地域別に登山道維持管理部会を設置する(登山道等の維持管理のための調整や合意形成)。
  - ③大雪山全体を活動範囲とし、かつ民間資金の受け皿となるような公園管理のための民間団体の育成を目指す。

大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)	
<p><b>&lt;役割&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園のビジョン作成</li> <li>・国立公園の利活用や保全上の課題の解決についての方針・計画作り</li> </ul> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省、北海道、1市9町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町、新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</li> <li>・関係行政機関(上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署、旭川開発建設部、帯広開発建設部、北海道運輸局)</li> <li>・観光関係者(ふらの、層雲峡、ひがしかわ、美瑛、かみふらの十勝岳、南富良野まちづくり各観光協会)</li> <li>・ロープウェイ事業者      ・バス事業者      ・国立公園管理の中核を担う民間団体</li> <li>・自然保護団体      ・研究者(大雪山研究者ネットワーク)      ・ビジターセンター関係者</li> </ul> <p><b>&lt;協議課題&gt;</b></p> <p>①<b>国立公園のビジョン、利活用、課題解決のための方針・計画づくり</b>  「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」パートナーシップ事業開始(2018年目標)  「大雪山国立公園ビジョン」の作成(2020年公表目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山岳地域の上質な空間の保全(大雪山縦走路の活用)      ・利用可能な資源の開拓、高付加価値のツーリズムの展開      ・利用拠点の活性化</li> <li>・公園内外の連携、プロモーション促進(ターゲットとそれに応じた利用メニュー開発)      ・外国人登山者の適切な利用促進に向けた活動</li> <li>・利用者負担(協力金)のあり方検討</li> </ul> <p>「大雪山国立公園管理運営計画」策定(2020年作成目標)  「大雪山国立公園登山道管理水準」改訂(2021年作成目標)      「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」改訂(2021年作成目標)</p> <p>②<b>情報の一元化と情報発信(民間団体が育成されるまでの当分の間)</b></p> <p><b>&lt;予算&gt;</b>      1市9町からの負担金(従前の大雪山国立公園連絡協議会の負担金の金額を変更せずに継続)</p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      環境省(業務の一部を民間団体に請負)</p>	<p>*大雪山の場合ステークホルダーが多いので、例えば「宿泊施設の意向については観光協会が代表する」などの関係者間の関係を明らかにする。  *士幌、上士幌、鹿追、新得の観光協会は役場に同じ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>&lt;幹事会&gt;</b>  担当者による連絡調整</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"><b>必要に応じた作業部会</b></p> <p><b>&lt;役割&gt;</b>      方針・計画づくりに関する実質的な議論</p> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b>      総合型協議会メンバーから手上げ方式により選出  <small>*議論の内容によってはメンバー外の出席を求め、意見を聴くことができる。</small></p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      環境省</p> </div>

表大雪登山道維持管理部会(※)	
<p><b>&lt;役割&gt;</b>      登山道等の維持管理活動に関する総合調整と合意形成</p> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立公園制度:環境省      ・土地所有者:森林管理署、北海道</li> <li>・歩道事業執行者・関係市町:北海道、1市5町(上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、富良野市、南富良野町)、りんゆう観光</li> <li>・国立公園管理の中核を担う民間団体</li> <li>・山岳会関係者      ・ガイド事業者      ・ビジターセンター関係者</li> <li>・保全活動団体(パークボランティア等)・整備の専門家</li> <li>・研究者、自然保護団体 等</li> </ul> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b></p> <p>①<b>維持管理活動のPDCAサイクル実施と検証</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討</li> <li>・活動の広報、人材育成(セミナー、ボランティア受入)、技術の蓄積と伝承</li> </ul> <p>②<b>登山道等維持管理の適正化に向けた議論</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道事業未執行区間の解消</li> <li>・施設の老朽化対策</li> </ul> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      環境省(業務の一部を民間団体に請負)</p>	<p><b>&lt;役割&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b>      左の中で東大雪に関わる者と関係4町(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</p> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      同左</p>

東大雪登山道維持管理部会(※)	
<p><b>&lt;役割&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b>      左の中で東大雪に関わる者と関係4町(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</p> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      同左</p>	<p><b>&lt;役割&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;メンバー&gt;</b>      左の中で東大雪に関わる者と関係4町(新得町、鹿追町、士幌町、上士幌町)</p> <p><b>&lt;活動内容&gt;</b>      同左</p> <p><b>&lt;事務局&gt;</b>      同左</p>

(※)総合型協議会とは独立並行して準備を進め、両方が成立した時点で協議会とその部会との関係になることも想定。個別の事業者は各立場を代表する団体へ出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨。

大雪山国立公園連絡協議会 メンバー案

	組織名
関係行政機関	環境省北海道地方環境事務所長
	北海道上川総合振興局長
	北海道十勝総合振興局長
	富良野市長
	上川町長
	東川町長
	美瑛町長
	上富良野町長
	南富良野町長
	士幌町長
	上士幌町長
	鹿追町長
	新得町長
	上川中部森林管理署長
	上川南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署東大雪支署長
	北海道開発局旭川開発建設部
	北海道開発局帯広開発建設部
	北海道運輸局
	観光協会
(一社)ひがしかわ観光協会	
(一社)美瑛町観光協会	
(一社)かみふらの十勝岳観光協会	
(一社)ふらの観光協会	
NPO法人南富良野まちづくり観光協会	
交通事業者	(株)りんゆう観光
	ワカサリゾート(株)
	道北バス(株)
	旭川電気軌道(株)
	十勝バス(株)
北海道拓殖バス(株)	
公園管理団体等	国立公園管理の中核を担う民間団体
自然保護団体	大雪と石狩の自然を守る会
	十勝自然保護協会
研究者	大雪山研究者ネットワーク
ビジターセンター運営協議会	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会
	ひがし大雪自然館運営協議会 (東川のビジターセンターの協議会)

表大雪登山道維持管理部会 メンバー案

分野	組織名	備考	
管理・運営	国立公園制度所管	環境省北海道地方環境事務所 上川中部森林管理署	事務局
	土地所有者	上川南部森林管理署	
		北海道上川総合振興局 南部森林室	
		北海道上川総合振興局 環境生活課	
	関係自治体	富良野市	
		上川町	
		東川町	
		美瑛町	
		上富良野町	
		南富良野町	
	国立公園事業執行者 (歩道事業)	環境省北海道地方環境事務所【再掲】	
		北海道上川総合振興局 環境生活課【再掲】	
		■管理委託:(有)風の便り工房	
		■巡視委託:NPO法人かむい(上川地区登山道維持管理連絡協議会経由)	
		■管理委託:大雪山自然学校(東川町、大雪山国立公園東川町自然保護協議会経由)	
上川中部森林管理署【再掲】			
上川町【再掲】			
国立公園事業執行者	東川町【再掲】		
	上富良野町【再掲】要確認26.27執行		
	(株)りんゆう観光【再掲】		
公園管理団体等	ワカザリゾート株式会社		
維持管理・利用指導に関する民間参画	国立公園管理の中核を担う民間団体【未定】		
	整備専門家	渡邊 倭二(北海道大学大学院地球環境科学研究院) 佐藤 文彦(有限会社風の便り工房) 岡崎 哲三(合同会社北海道山岳整備)	大雪山における登山道管理水準等検討会 技術指針作業部会委員
	保全活動団体(行政制度に基づくもの)	大雪山国立公園パークボランティア連絡会 大雪地区自然公園指導員連絡会	
	保全活動団体(民間)	大雪山・山守隊 大雪山自然学校【再掲】	
		NPO法人 ezorock	
利用・環境教育	ビジターセンター運営協議会等	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会(層雲峡ビジターセンター) 旭岳ビジターセンター	
	山岳会	旭川山岳会	
		上川山岳会	
		富良野山岳会	
		上富良野十勝岳山岳会	
		美瑛山岳会	
		日本山岳会北海道支部	
		勤労者山岳連盟(道央地区)	
		旭川勤労者山岳会	
	ガイド等事業者	北海道山岳ガイド協会表大雪地区連絡室	
		北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡室	
		山楽舎BEAR	
		ガイドオフィス風	
		山岳ガイド池永氏	
		大雪山倶楽部	
NPOかむい【再掲】			
保護・保全	自然保護団体	TREE LIFE NPOアースウィンド ガイドの山小屋 東川エコツーリズム推進協議会 有限会社アグリテック	
	研究者	大雪と石狩の自然を守る会	
		北海道高山植物ネット	
調査研究	研究者	山のトイレを考える会	
		大雪山研究者ネットワーク 山岳レクリエーション管理研究会	

<オブザーバー>

今後、各分野の立場を代表しない、個別の事業者、団体、組織又は、該当分野以外で大雪山国立公園の登山道の維持管理に関心を有する者が参加する場合は、オブザーバーとして参加。

現時点でメンバーになっている個別の事業者、団体、組織は、できる限り、各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨し、登山道維持管理部会のスリム化を図り、議論が円滑に進むことを目指す。

東大雪登山道維持管理委員会 メンバー案

		組織名	備考
管理・運営	国立公園制度所管 土地所有者	環境省北海道地方環境事務所 十勝西部森林管理署東大雪支署	事務局
	関係自治体	北海道十勝総合振興局 環境生活課	
		上幌町	
		上土幌町	
		鹿追町	
	国立公園事業執行者 (歩道事業)	環境省北海道地方環境事務所【再掲】	
		■巡視委託:新得山岳会	
		北海道十勝総合振興局 環境生活課【再掲】	
		■管理委託:新得山岳会【再掲】	
	公園管理団体等	十勝西部森林管理署東大雪支署【再掲】	
維持管理・利用 指導に関する民間 参画	整備専門家	国立公園管理の中核を担う民間団体【未定】	
		渡邊悌二(北海道大学大学院地球環境科学研究院)	大雪山における登山道管理水準等検討会 技術指針作業部会委員
		佐藤文彦(有限会社風の便り工房)	
		岡崎哲三(合同会社北海道山岳整備)	
	保全活動団体(行政 制度に基づくもの)	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	
保全活動団体(民間)	大雪地区自然公園指導員連絡会		
利用・環境教育	ビジターセンター運営協議会等	大雪山・山守隊	
	山岳会	しほろ自然環境に親しむ会	
		ひがし大雪自然館運営協議会(事務局:上土幌町【再掲】)	
		十勝山岳連盟	
	ガイド等事業者	新得山岳会【再掲】	
		日本山岳会北海道支部	
		北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室	
		NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター	
		然別湖ネイチャーセンター	
		ポレアルフォレスト	
山楽舎BEAR			
保護・保全	自然保護団体	山のトイレを考える会	
調査研究	研究者	大雪山研究者ネットワーク	

<オブザーバー>

今後、各分野の立場を代表しない、個別の事業者、団体、組織又は、該当分野以外で大雪山国立公園の登山道の維持管理に関心を有する者が参加する場合は、オブザーバーとして参加。

現時点でメンバーになっている個別の事業者、団体、組織は、できる限り、各立場を代表する団体に出席をゆだね、オブザーバーとなるように推奨し、登山道維持管理委員会のスリム化を図り、議論が円滑に進むことを目指す。

## ワークショップの進め方

### WSの進行のルールについて

- ブレインストーミングで行います。
  - 感じていること、気になっていることをそのまま述べてください。  
行政との質疑応答の場ではありません。
- 他人の意見を尊重ください。
  - 異なる意見でも「そだねー」といって皆で聞きましょう。
- オフレコとしたい場合は言ってください。
  - WSの記録は取りますが、「言いたいけど記録には残したくない」時は申し出てください。その意見は記録には残しません。

## ワークショップその1

<意見をいただくテーマ>  
新しい協働型管理運営体制について

<具体には、上記関する・・・>

- ①「心配事や関心事」
- ②「今後参加が必要な人や団体」
- ③「運営に関してのアイデア」

## ワークショップその2

<意見をいただくテーマ>  
新しい協働型管理運営体制への参画について

<具体には・・・>

- ①「参画への心配事」
- ②「参画のためのより良い環境とは」
- ③「新しく試みたいこと」